令和3年度 大田区立出雲小学校 自己評価 報告書

令和4年3月12日

○ 本校の概要

【長期的目標】社会の中で、自己の豊かな能力や個性を実現させながら、社会を支える人材を育てる

<児童の現状>
○元気よく遊ぶ ○人なつこく、仲間思い
○挨拶がよくできる
○素直 ○自己肯定感の向上
○自主性、主体性の向上
○家庭学習の習慣化
○基本的生活習慣の定着

<地域の特質>
○歴史と伝統があり、学校への愛着がある
○学校のボランティア活動等、協力的である
○継続して、子ども、学校を支えている

<学校の課題>【学習】
○子どもと学びの質の向上
○子どもの自主性や主体性を育む教育活動
○自尊感情と自己有用感の醸成
○規範意識の向上

<学校の課題>【学校組織】
○カリキュラム・マネジメントの実施
○教職員の経営参画意識を高めるシステムづくり
○ＩＣＴの活用、英語、特別支援教育、体力向上等への取組
○施設、教材・教具の適切な管理と活用
○地域の中の学校としての役割

【研究テーマ】
未来を創る力の育成―ものづくり教育を通して―
・「未来ものづくり教育」に特化した教育課程の編成
・論理的・科学的な思考力の育成
・言語技術の育成（系統的・継続的な指導）
・町工場や企業と連携し、地域を活用した単元開発
・自己点検票による授業改善

<未来を創る力> 論理的・科学的に思考し、新たに考えを創造することができる ・３つの教育目標が基盤となり、未来を創る力を高めていく。 ・日常の学習、校内研究等で培う。

学びあう 自己の将来を見据え、自ら進んで学び続ける児童の育成
・一人一人の課題に応じて、知識・技能を活用する力、思考力、判断力、学習意欲の伸長
・各教科の基盤である言語能力を育成
・表現力・伝える力の向上を推進

助けあう 高い規範意識をもち、自ら考えながら適切な判断をすることができる
・生活規律の徹底、規範意識の醸成
・相互信頼の精神の育成と人権教育の推進
自他の違いを認め、仲間を大事にして共に生きる態度を養う行事、班活動、清掃活動等
・近隣中学校との小中一貫教育を通して、きめ細かい生活指導、キャリア教育の実施

高めあう 実践力をもち、明るく豊かな生活を営む態度を身に付ける
・重点指導事項により、体力を向上させ運動に親しむ態度を養う機会を
定期的・日常的に設定する。
・オリンピック・パラリンピック教育の推進

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	・保護者アンケート「学校の教育方針や教育活動は、家庭や地域住民の願いや期待に応えるものになっている」と回答した割合。 ・児童アンケート「自分の思いや考えを工夫して、まとめたり発表したりすることができる」と回答した割合。 ・児童アンケート「自分の意見を伝えるときに、相手が分かりやすくなるように、理由や根拠を常に伝えるようにしている」と回答した割合。 ・教員アンケートの「校内研究「未来を創る力の育成～未来ものづくり教育を通して」を中心に主体的・対話的で深い学びにつながる教材開発や地域人材を活用して実践する。」と回答した割合。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケートの結果、学校全体では「当てはまる」60.3%、「やや当てはまる」36.8%を合わせると97%以上が肯定的な評価であった。一方、中学年にわずかながら「あまり当てはまらない」との回答がみられたので、改善していけるよう原因を検討していく。 ・児童アンケートの結果、学校全体では「当てはまる」「やや当てはまる」を合わせると67%が肯定的な評価であった。4年生では昨年比で肯定的な回答が約25%増えている。一方、3年生は否定的な回答が約23%増えている。これは、低学年から中学年に上がる段階で、語彙の増加が見られるものの、実際には使いこなすまでには身に付いていないものと考えられる。それが日常的な言語トレーニングの積み重ねの結果、4年生の段階で少しずつ成果として表れているのではないかと思われる。5・6年生では昨年と大きな変化がないが、引き続き言語トレーニングを続けていくことで、論理的でより豊かな表現やわかりやすい伝え方ができるようになると考える。 ・教員アンケートの「校内研究「未来を創る力の育成～未来ものづくり教育を通して」を中心に主体的・対話的で深い学びにつながる教材開発や地域人材を活用して実践する。」では、おおむねできたが44.4%、ややできたが33.3%で、合わせると77.7%で肯定的な意見であった。ものづくりの考え方や発想のもち方を参考に、授業の構成を考え、子どもが課題を追及する教材開発をすることができた。子どもたちの意欲的な姿から教師もさらに教材づくりに力を入れ、授業の工夫につなげた。	A B C D	3 3 0 0	○ICT活用により、児童間のコミュニケーションの不足が考えられるのが、教職員による粘り強い対応により補われている。 ○児童の回答から、体験の減少などの要因で新しいアイデアや工夫に対する刺激が不足しているのではと思われた。しかし上手くいかないときに、原因を探すという思考は、コロナ時代の特徴で、問題意識の高まりと伺える。保護者の評価が高い一方で、教職員の方は低く、レベルの高さが見え隠れしている。 ○ICTを活用した教育を自ら学び、授業に取り入れるよう努める教職員が、理解と創造・独創と協調などの資質を引き出す児童の成長環境となっている。 ○ものづくり教育を通して、人の言うことを聞いたり、工夫したり、総合的な能力を培う事ができ、本当に良かった。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6人
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		校内研究「未来を創る力の育成～未来ものづくり教育を通して～」を中心に主体的・対話的で深い学びにつながる教材開発や地域人材を活用して実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	・保護者アンケート「先生は一人ひとりに自信をつけさせるため、ほめたり、励ましたりしている」と回答した割合 ・児童アンケート「ねばり強く、何事にもチャレンジしようとしている」と回答した割合。 ・教員アンケートの「学習カルテを基に児童と面談し、一人一人の学習のつまづきや学習方法について、指導する。」と回答した割合。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケートの結果、学校全体では「当てはまる」67.3%、「やや当てはまる」26.9%を合わせると94%以上が肯定的な評価であった。特に6年生は「当てはまる」が84%に上った。一方、3年生は「あまり当てはまらない」が13%を超えた。一方、2学級の4年生は、1クラスの人数が多いのにも関わらず、「当てはまる」が80%近く肯定的であった。子どもへの指導の仕方、声のかけ方などを学校全体でもう一度振り返り、信頼される教員の育成を引き続き行っていく。 ・児童アンケートの結果、学校全体では「当てはまる」「やや当てはまる」を合わせると81%が肯定的な評価であった。昨年度69.2%から今年度82.5%と約13%増加している。学習意欲の低い児童への支援や学習活動の工夫を継続して行っていく。 ・教員アンケートの「学習カルテを基に児童と面談し、一人一人の学習のつまづきや学習方法について、指導する。」では、おおむねできたが22.2%、ややできたが38.9%で、合わせると61.1%で肯定的な意見であった。一方、「ややできていない」が27.8%に上った。まだ個々の課題については十分に指導ができていないと感じている教員もおり、全体への指導の方法と合わせて、個々への対応の仕方については校内で研修をして、教員の指導力向上につなげたい。	A B C D	3 3 0 0	○タブレットなどで個別の理解度を把握できるようなメリットはあるのかと思う。読み、書き、計算（PC操作を含む）のリテラシーの醸成が着実に身に付くことが肝要である。 ○一部の子どもには、学習に対して意欲がみられず、保護者の関心、意欲も低く感じられる。 ○児童一人一人の自主性を尊重して取り組んでいる。 ○ここでも児童の自己評価は高いとは言えないが、昨年度からの増加幅は、今年度の取り組み改善などが成果を生んでいるように読み取れた。保護者とも学年毎に連携して同じような割合になっている。高学年は、これまでの取組を踏まえた評価をしているのではないか。教職員の言語トレーニングの努力も初めて取り組む教職員もおられ、アンケート評価は分かれた。 ○自らの達成感、努力に対する教師の評価が、児童の向上意欲となって現れるように心を配っている。 ○授業の様子は、先生によって個性が出ていて、教える側も児童も楽しく授業が行われていた。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6人
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		言語技術を身に付けるため、言語トレーニングを計画的に実践し、思考力や表現力を高める工夫を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	・保護者アンケート「学校はいじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいる」と回答した割合。 ・保護者アンケート「子供は学校生活を楽しんでいる」と回答した割合。 ・児童アンケート「ねばり強く、何事にもチャレンジしようとしている」と回答した割合。 ・教員アンケートの「小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。」と回答した割合。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケート「学校はいじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいる」の結果、学校全体では「当てはまる」64.3%、「やや当てはまる」31.8%を合わせると96%以上が肯定的な評価であった。一方、「子供は学校生活を楽しんでいる」では、3年生において「当てはまらない」が6.7%あるということは、子どもと保護者への丁寧な説明や対応の足りなさがこのような評価につながっているのではないかと考えられる。学年・学校が組織的に連携を図り、信頼される学校を目指す。 ・教員アンケートの「小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。」では、おおむねできたが50%、ややできたが33.3%で、合わせると83.3%が肯定的な意見であった。どの教室にも子どもたちの居場所があり、安心して過ごすことで、未来への希望をもっていけるような子どもたちの育成を今後も図っていく。	A B C D	4 2 0 0	○個々の趣味、特技などを披露させたりして存在感を知らしめることにより、個人を尊重し合うようなことがあっても良いのかとも思う。 ○児童一人一人の心の豊かさをサポートすると共に、友達に対する思いやりの心を大切にするための意識を高めている。 ○自分が受け入れられている安心感が、自他共に尊重する共生の精神を醸成している。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6人
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		毎週の生活指導夕会を基に、気になる児童や校内で共通理解することを確認したり、一人ひとりの良さを引き出す話し合いをしたりする。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	・保護者アンケート「子供は早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な習慣が身に付いている」と回答した割合。 ・保護者アンケート「家庭では、基本的な生活習慣やマナーを守るようにしつけをしている」と回答した割合。 ・児童アンケート「手洗い、マスク着用を忘れずにコロナ予防を行った」と回答した割合。 ・児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活ができている」と回答した割合。 ・教員アンケートの「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。」と回答した割合。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケート「子供は早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な習慣が身に付いている」の結果、学校全体では「当てはまる」「やや当てはまる」が94%以上に上った。一方、「あまり当てはまらない」も各学年において、数人はいるという結果が出ているので家庭と引き続き連携を深め、個々の子どもたちの生活を改善しているよう学校全体で呼び掛けていきたい。また、「家庭では、基本的な生活習慣やマナーを守るようにしつけをしている」では、「当てはまる」「やや当てはまる」が98%以上に上った。一方、スマホやタブレットなどの深夜までの使いすぎや寝不足で遅刻してくる子どもがいる実態から、引き続き、家庭に対して個別に連携するとともに学校全体でもコロナ禍における健康教育を推進していく。 ・教員アンケートの「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。」では、おおむねできたが50%、ややできたが27.8%で、合わせると77.8%が肯定的な意見であった。一方、「できていない」と答えた割合も11.1%あった。コロナ禍において、規則正しく、健康的な生活習慣を続けることの難しさとともに、保護者への啓発をし続ける難しさを痛感している。また、「コロナ禍において自分の身体を守るために手洗いやマスクの着用の徹底、3密を回避しながら健康・体力の保持増進を実践する。」はおおむねできたが77.8%、ややできたが16.7%で、合わせると94.5%が肯定的な意見であった。教員も感染防止の習慣化が定着してきた。	A B C D	4 2 0 0	○校庭が土でできていて広く、比較的近くに六郷土手がある利点を最大限に利用して、身体を動かすことをいとわないようにさせていただければと思う。 ○コロナ禍による制限の中、児童の健康増進を進めている。 ○アンケートから、コロナ禍の感染防止に対する新しい習慣が身に付いていることが伺われるが、体力向上の取組について、3蜜を回避しながらの実践では、保持はできても、増進につながっているのかの差異を計ることは、アンケートの中では読み取れなかった。 ○コロナ禍の困難に対する日常的な工夫・配慮が健康生活の意識付けとなっている。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6人
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		コロナ禍において自分の身体を守るための手洗いやマスクの着用の徹底、3密を回避しながら健康・体力の保持増進を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	・保護者アンケート「学校は地域人材（保護者地域の人々）や地域環境（町工場・企業）を活用して教育活動を進めている」と回答した割合。 ・児童アンケート「授業中、勉強がよくわかる」と回答した割合。 ・教員アンケートの「授業形態を見直し、タブレットを活用した新たな学びのスタイルを生み出そうと学年を中心に授業改善に取り組む。」と回答した割合。	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケート「学校は地域人材（保護者地域の人々）や地域環境（町工場・企業）を活用して教育活動を進めている」の結果、学校全体では「当てはまる」と「やや当てはまる」が98%以上に上った。特に1年生以外は「当てはまる」が70%以上に上った。校内研究の「ものづくり教育」を中心として地域人材や地域環境を、本校教員がすすんで活用しようとしてきた成果が表れてきた。引き続き、地域に根ざした学校教育の推進を図っていきたい。 ・教員アンケートの「授業形態を見直し、タブレットを活用した新たな学びのスタイルを生み出そうと学年を中心に授業改善に取り組む。」では、おおむねできたが38.9%、ややできたが33.3%で、合わせると72.2%が肯定的な意見であった。昨年に比べても、教員のタブレットを活用した授業形態が多様になってきた。一方、「できていない」も16.7%に上り、教員間で個人差が大きく出ている。これはある意味、仕方がないことではるが、毎年、どの教員もタブレットを活用した授業	A B C D	4 2 0 0	○町工場や企業とのコラボによる教育の有り方は大変評価できる。又、タブレットを使用した授業に現在のニーズを的確にとらえている。○新しい習慣の仕組みが定着する迄は、試行錯誤の繰り返しという教職員の負担が多大と伺える。教育環境への取り組みに対し、向上的な姿勢の現れではないかと思われる。一方、保護者の評価は全体的に高いため、意識が受ける身にあるかとも考えられる。 ○デジタルトランスフォーメーション、カーボンニュートラル（脱炭素）等、産業構造・資源循環型・情報社会等々の大枠が、地域や生活様式の変化となってきている中で、地域社会との交流を重視している。○先生方もICT活用で違った児童との接し方があり、大変だったろうと思う。オンライン授業もきちんと行われていた。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6人
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		授業形態を見直し、タブレットを活用した新たな学びのスタイルを生み出そうと学年を中心に授業改善に取り組む。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
プラン6 学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	・保護者アンケート「学校の教育方針や教育活動は、家庭や地域住民の願いや期待に応えるものになっている」と回答した割合 ・保護者アンケート「学校は、保護者会や学校だより、またホームページなどを通して、学校の教育目標を伝えている」と回答した割合。 ・児童アンケート「宿題や自主学習など、毎日、家庭学習（学年×10分＋10分）に取り組んでいる」と回答した割合。 ・教員アンケートの「教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報的に情報を発信する。」	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・保護者アンケート「学校は、保護者会や学校だより、またホームページなどを通して、学校の教育目標を伝えている」の結果、学校全体として「当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせると98%以上に上った。コロナ禍において学校公開など行事が制限される中で、子どもたちの学びをホームページや中心として学校だより、学年だより、学級だよりなどを通してお伝えしてきたことが周知していただけた。引き続き、学校の取組に自信をもちながらも、保護者、地域の声に耳を傾け、よりよい学校経営に取り組んでいきたい。 ・教員アンケートの「教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報的に情報を発信する。」では、おおむねできたが22.2%、ややできたが50%で、合わせると72.2%が肯定的な意見であった。コロナ禍において、学校に来校できない保護者や地域の方へ少しでも学校や子どもたちの様子を学校だよりやホームページなどで発信してきた成果が表れている。また、緊急連絡システムを活用し、学校の行事予定の変更などを随時、お知らせしてきたことで家庭や地域と連携を図って学校の教育活動を進めることができた。	A B C D	3 3 0 0	○保護者の参加型の行事により学校に対する関心を高めていくことが、家庭内の家族間の結びつきを深めることにも結び付くと思う。 ○地域での子どもたちの行動を把握し、迅速な対応ができている。学校・地域・家庭が連携し子どもを育む姿勢がとても評価できる。 ○コロナ禍により、学校・家庭及び地域との連携が取りにくいが「学校だより」等の手段により補っている。 ○出雲小学校が、地域・保護者との連携を深め、児童の教育にどのように取り組んでおられるか、積極的に開かれていると保護者、特に6年生は100%という評価に対し、教員の自己評価が半々に分かれており、学校運営の厳しい環境が伺える。地域として協力していきたい。 ○学校運営の理念、教師や児童の現況をよく知ることができた。 児童アンケート回答数 547人 保護者アンケート回答数 243人 教員アンケート回答数 30人 地域教育連絡協議会アンケート回答者数 6
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		児童の健康への意識を高めるために、本校独自の生活リズムカードの他に毎日の健康観察カードを活用し、健康チェックを学校と家庭で協力して行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら感染拡大防止を徹底するために、ICTを活用した学校公開、リモート学習等を通して学校、家庭、地域が連携教育をする。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							

に

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。